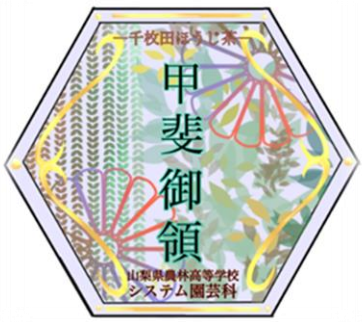
Ｒ５年第３号
農林高校

農場通信

農業活動での汗を感動へ　～実習による成就感と達成感～

■ラベルデザインしたほうじ茶の販売実習（システム園芸科）

システム園芸科は昨年度より、甲斐市亀沢の「御領千枚田再生プロジェクトの会」の皆さんと共に、耕作放棄地になった棚田の再生プロジェクトを行っています。5 月にたい肥作り・サツマイモの植え付け、6 月に田植え、7 月～8 月に除草とコキア定植、9 月に夏を越して大きくなったコキア周辺の除草をしました。10 月には念願の稲刈りを行い、御領棚田の収穫祭の時に私たちが植えたサツマイモが焼き芋として来場者に提供されました。また、御領棚田では、ほうじ茶も栽培しています。多くの方においしいほうじ茶を手に取ってもらえるように、私たちが考案した新しいラベルのほうじ茶を「甲斐てき朝市」で販売しました。「趣のあるデザインですね」など、たくさんの方々に褒めていただきました。



■ブランド夏っこきのこの栽培（森林科学科）

森林科学科は、令和元年度から山梨県が研究開発をしている山梨夏っこきのこの栽培を行っています。昨年度までの課題をまとめ、栽培を改善して管理をしてきました。この数年、栽培した菌床から安定してきのこが収穫ができるようになったので、今後は販売活動に力を入れ、山梨ブランドのきのことしての地位確立を目指したいです。さらに種菌を用いた菌床を自分たちで作ることにも挑戦し、本校独自の生産物としても活用できるように栽培体制を整えていきたいと考えています。

■プロジェクト学習を発表（環境土木科）

１月１０日（水）、３年生が１年間取り組んだプロジェクト学習の成果を発表しました。A グループは、過去の先輩たちが作り上げた構内平面図の精度を高めるための計測や CAD 技術の深化を目標に取り組みました。作成した図面は、他学科でも活用しやすい完成度となっています。B グループは、生徒昇降口にある空きスペースをコンクリート平板に改良しました。施工計画から施工方法の検討、部材の加工、コンクリートの作り方や打設方法までを学ぶ機会となりました。C グループは、グラウンド南西側の側溝にコンクリート蓋を設置する工事に取り組みました。この場所は、朝夕の登下校時に混雑します。その原因の一つに道幅の狭さも関係しているため、整備をしました。１・２年生は、環境土木科で学習している内容が現場でどのように活用されているのか、３年生は、他グループの活動について興味を持って見ていました。

■造園デザインコンクール課題で造園にハマる（造園緑地科）

造園緑地科は、造園デザインの甲子園とも言われている全国造園デザインコンクールへの応募作品（製図図面）づくりにこの年末年始は明け暮れました。

今年で50回目となる本コンクールには、過去に本校が文部科学大臣賞に４回輝きましたが、最近は、コロナ感染の影響もあり十分な課題製作時間も確保できないことから入選ができていません。今年は、街区公園の部や緑の広場プランの部、住宅庭園の部の入選に向けて、取り組んでいます。造園のデザイン力は簡単に身に付くものではありませんが、１本１本の線を引くことに集中して作製しています。このようなコンクールに取り組むことによって、造園の学びの成長が伺えるとともに、造園にハマる生徒の姿を垣間見ることができます。

■自生酵母で仕込んだワインがＧＩ取得！（食品科学科）

今年度、食品科学科２年生は山梨大学の乙黒准教授を講師として新たな研究に取り組みました。ワインの発酵には「サッカロミセス・セレビシエ」というアルコール生成能力のある酵母が使用され、これは自然界のいたるところに存在しています。しかし通常のワイン製造では、パン製造用ドライイーストと同じように、人工的に育成された培養酵母を使用します。そこで、本校圃場に自生する酵母を仕込みに使用して、高品質かつ個性的なワインができないかと考えました。「スケールアップ」という手法を用いて培養した本校自生酵母は、順調に発酵してブドウ果汁をワインに変えました。完成したワインは山梨県ワイン酒造組合主催の品評会に出品し、見事「地理的表示（ＧＩ）山梨」を取得しました。

■農ク全国大会に向けて、第１回生徒実行委員会を開催（農ク）

来年１０月、山梨県を中心に「農ク全国大会西関東大会」が開催されることは、ご存知でしょうか。令和７年１０月２２日（水）～２３日（木）、山梨県、東京都、神奈川県を会場に開催します。農林高校は、主に農業鑑定競技会の運営を行います。写真は今年、熊本農業高校で開催された競技の様子です。全国から１０００名の選手が競技に参加します。

また、農林高校は事務局（生徒実行委員会）として活動します。生徒実行委員長は、丹澤真衣さん（１Ｓ）です。１２月２６日（火）、大会に先駆けて、第１回生徒実行委員会が本校で開催されました。東京、神奈川県からも農ク役員の生徒が集まり、ポスターなどの選考をしました。現１年生が、運営の中心的な立場になりますので、ご協力ください。

農業鑑定競技大会（熊本大会）